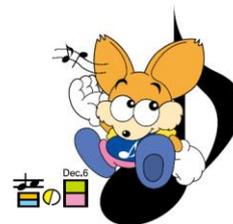


特集：2017年「音の日」

## 第24回「音の日」のイベントと 第22回「音の匠」顕彰についてのご報告

「音の日」実行委員長 森 芳久

昨年もまた、12月6日「音の日」が目黒の雅叙園に於いて盛大にそのイベントを開催し、おかげさまで一昨年よりさらに多くの方々にご参集いただき、文字通り大成功裏に終えることができました。第24回を数える2017年度の「音の日」の特筆すべきことは、例年に比較して学生など若い方々の参加、そして女性の姿が目立ったことです。これは「音の日」が確実に一般にも浸透していることの表れでもあり、担当者はもちろん協会にとっても非常に喜ばしい変化でした。



ご参集いただきました皆様、またこのイベントにご協力いただきました業界団体各位、そして関係者の皆様にこの場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。



昨年は日本オーディオ協会創立65周年記念の年でもあり、「音の日」の特別イベントとしてサウンドエンジニア深田 晃（ふかだ あきら）氏を講師にお迎えし「CD 前夜からハイレゾまでの録音制作」と題した記念講演をお願いいたしました。

深田氏は、音楽録音の世界で長年に亘り数々の名録音作品を制作されてきた、文字通り国内屈指のサウンドエンジニアです。これまでにCBS/ソニー・レコード（現ソニー・ミュージックエンタテインメント）や日本放送協会（NHK）のハウスエンジニアを歴任され、現在フリーランスとしてご活躍されています。

講演では、アナログからデジタルへの大きな技術のパラダイムシフト、さらに現在のハイレゾ録音までの録音制作の歴史と進化、録音機材の変遷、さらにはご自身の実体験からのマイクアレ

ンジの詳細、セッティングのノウハウなど貴重なお話を披露していただきました。これからサウンドエンジニアを目指す人はもちろん、オーディオ製品開発やオーディオ愛好家にとっても大変有意義な講演で、まさに日本オーディオ協会 65 周年「記念講演」に相応しいものでした。



深田 晃氏の記念講演

また、65周年という節目に「日本オーディオ協会賞」の受賞式も行われました。この賞は1986年に創設され、5年ごとに「オーディオ技術の開発および実用化に大いに貢献した個人、また組織の顕彰」を行うものです。

昨年は、

- 1) 「ハイレゾ・オーディオの提唱と推進」に貢献したソニービデオ&サウンドプロダクツ株式会社。
  - 2) 「ハイレゾストリーミングサービス PrimeSeat」の開発および運営に貢献した、株式会社インターネットイニシアティブ、株式会社コルグ、有限会社サイデラ・パラディソ、ソニー株式会社。
  - 3) 「ブランド復活と市場活性化の推進」で業界を活性化した、パナソニック株式会社アプライアンス社ホームエンターテインメント事業部。
  - 4) 「CIとブランド戦略による市場活性化」を成功させた、株式会社JVCケンウッド。
  - 5) 「ブランド戦略による組織を超えた事業強化」に成功した、三菱電機株式会社。
- 以上5の案件、計8社の組織が顕彰されました。



協会賞を受賞された8社の代表の皆さん



「音の日」の恒例イベント「音の匠」顕彰式では、長年に亘りスタジオ機器や建築音響の研究開発・設計を手がけてこられた、四日市大学名誉教授で株式会社豊島総合研究所所長の豊島 政實（とよしま まさみ）氏が平成29年度第22回「音の匠」として顕彰されました。

豊島氏は、1964年日本ビクター株式会社音響技術研究所入社後、一貫してスタジオ機器や建築音響の研究開発、

設計業務を続けられ、2000年同社を定年退職後は株式会社豊島総合研究所を設立、四日市大学で環境情報学部教授としても活躍されてきました。氏は、国内はもちろん世界各国の著名スタジオの音響設計を手がけられ、主なものに英国アビーロードスタジオ、米国ルーカスフィルムスコアリングステージスタジオ、中国上海TVスタジオ、国内ではビクタースタジオなどなど枚挙に遑がありません。

豊島氏の設計したスタジオには、録音エンジニアやアーティストから一様に「響きが良い」と好評で、その評価が正しいことは業務用スタジオのみならず、エンヤ、スティング、ジョージ・マイケルなど数多くの著名アーティストのプライベートスタジオが豊島氏設計のものであることから良く判ります。

顕彰式では、日本オーディオ協会の校條会長より表彰状、顕彰楯、そして株式会社電波新聞社代表取締役社長平山 勉（ひらやま つとむ）様より記念品の贈呈が行われました。



「音の匠」顕彰式での豊島氏（中央）、平山電波新聞社長（左）、校條会長（右）

顕彰式の後、引き続き行われた「音の匠」特別講演会『響きと共に』では、豊島氏がこれまで手がけられた数々のスタジオに関するエピソードはどれもが興味深いお話で、特にアビーロードスタジオの改修工事とビートルズにまつわる秘話は聴衆者の心を強く捉え、パーティー会場でも豊島さんの周りには多くの人が集まり質問の嵐が吹き荒れていました。(詳しい講演内容は本号の豊島氏の投稿をご覧ください)



特別講演でスピーチする豊島氏

ご好評いただいております「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」も2017年度は第4回を迎え、今回も質の高い作品の応募が増え、若い世代の活躍ぶりを感じさせてくれました。(詳しい内容につきましては「音の日」実行副委員長高松 重治氏による本号次項の「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」をご覧ください)



若い活気に大いに盛り上がった「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」表彰式

そして「音の日」の締め括りは恒例の「音の日つどいパーティー」です。昨年は例年よりも若い方々の姿が目立ち、また多くの方々に参加していただき、和やかな中にも活気溢れた集いとなりました。

また、経済産業省からのご来賓として、商務情報政策局コンテンツ産業課課長補佐の伊藤 圭(いとう けい)様のご参加をいただき、冒頭のご挨拶でオーディオ業界に対する大きな期待と力強いエールを送っていただきました。

この席でもまた、第22回「音の匠」顕彰者、「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」受賞者の紹介、そして第24回「プロ音楽録音賞」受賞者の紹介などが行われ、会場は終始和やかな雰囲気になっていました。

以上、2017年度「音の日」の催しについて、簡単にご紹介いたしました。尚、それぞれの主なイベントについては続く別項で詳しくご紹介いたしましたので、是非そちらも併せてご覧ください。



多くの方々が参加した「音の日つどいパーティー」